議員（門　　秀俊）

２番　門　秀俊です。

一般質問させて頂きます。

本日は、１.多度津町プレミアム付商品券の発行について、２.町のコイン、どっつについて質問させて頂きます。

１点目、多度津町プレミアム付商品券の発行についてです。

令和２年１月に国内における第１例目の新型コロナウイルス感染者が発表されて以来、同感染者が爆発的に増加し、いまだに収束の目途が立っていない状況にあります。

ここで言う収束とは、収まり締め括りをつけ、ある一定の状態に落ち着く、つまり、新型コロナウイルス感染症に関する社会的な状況がかなり落ちつき、ほぼ事態が収まるという意味です。

令和４年５月 30 日現在の香川県が公開している県内の累計患者数は、4 万 8,124 人となっています。

なお、多度津町内では、令和２年８月７日に初めて感染者が公開されてから同日、現在の累計で 817 人となっています。

このような感染者の増加に伴い、町内の経済活動は停滞し、町内事業者からは、事業を継続するのは困難だ。後継者に事業の伝承する時期であったのに、困難になったなどの暗いご意見をお伺いすることが多くなっています。

事業者支援策として、国、県、町及びその他関連団体では多くの対策が講じられてきました。

その中で、住民に身近な町の対策として、新型コロナウイルス感染症対応型の多度津町プレミアム付商品券事業が昨年度及び一昨年度に実施されました。

今回の６月定例会の補正予算にプレミアム付商品券に関わる予算が計上されているようですが、この事業について２点質問させて頂きます。

１点目、今回のプレミアム率、また、販売冊数の総数及び１人当たりの販売冊数について教えて下さい。お願い致します。

産業課長（谷口　賢司）

門議員の今回のプレミアム率、また、販売冊数の総数及び１人当たりの販売上限冊数についてのご質問に、答弁をさせて頂きます。

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した多度津町プレミアム付商品券発行事業は、令和２年度より多度津商工会議所が発行主体となり実施されています。

この事業は消費者及び事業者の消費マインドを刺激し、ひいては町内の経済活動を活性化させることを目的としています。

今年度実施分については、今定例会の補正予算に同商工会議所への補助金を計上

しておりますので、予定に基づき答弁致します。
まず、今年度のプレミアム率ですが、昨年度と同様に商品券部分が20％、食事券部分が20％の合計40％を予定しています。
次に販売冊数ですが、昨年度の同商品券販売に係る抽選で落選された購入希望者が多数発生したことを受け、今年度は2,000冊を増冊し、1万5,000冊の発行を予定しています。
これにより町内事業者内で利用される額面総額は、2億1,000万円を予定しています。
なお、昨年度の額面総額は1億8,200万円でした。
最後に１人当たりの販売上限冊数ですが、昨年度と同様に５冊を上限とする予定です。１冊の購入費用は１万円であり、１冊で利用出来る商品券はプレミアム分も含めて1万2,000円、食事券が2,000円の合計1万4,000円となる予定です。このため、上限５冊を希望された場合は５万円での購入費用で、食事券を含めて７万円分が利用出来ることになります。
以上、答弁とさせて頂きます。

議員（門　　秀俊）

２点目、前回は１冊にはプレミアム分も含めて、12枚の商品券と２枚の食事券がセットとなっており、商品券も食事券も1,000円の券となっていました。
弁当を販売している事業者や喫茶を営む事業者の方から、プレミアム付商品券の使用時には、釣銭が出てこないことになっているので、1,000 円の券では使ってもらいにくい。このため、食事券だけでも 500 円の券にしてもらえないだろうか。とのご意見をお伺い致しました。商品券の事業主体は、多度津商工会議所になりますが、町としての考えを教えて下さい。

産業課長（谷口　賢司）

門議員の食事券を 500 円券に出来ないのかについてのご質問に答弁をさせて頂きます。
新型コロナウイルス感染症の蔓延が周知されるようになった２年前より、同感染症の感染拡大を予防するため、飲食を行う会合等が自粛され、それに呼応するように飲食店の利用者が減少し、同飲食店の経営状況が悪化しました。
飲食事業者の中には、通常の形態とは別に弁当販売を中心としたテイクアウトを行う事業者が増加しました。
このような形態を営む事業者からは、ご質問にあるとおり、食事券の額面を1,000 円から 500 円にして欲しいとのご意見を伺ったことがあります。
一方、ひとり暮らしをされている住民の方からも 1,000 円では額面が大き過ぎるとのご意見を伺っております。
このため、プレミアム付商品券の発行主体である多度津商工会議所に先ほどの意

見を報告したところ、今年度発行分の食事券に限っては、1,000 円券から 500 円券に変更したいとの回答がありました。
これにより、同食事券の利便性が向上し、早期に町内飲食店で利用されることになると考えております。
以上、答弁とさせて頂きます。
議員（門　　秀俊）
　有難うございます。
このプレミアム付商品券事業もその他、景気、雇用対策も住民が主体となってやるべき事業です。
これからも利用する利用者の住民及び事業者への意見を耳に傾けて、本当に必要とされる事業を選択し、実施されることを肝要と思います。
これからも商工会議所を初めとする関係機関及び各種団体との意見交換を大切にすることを要望致します。また、冒頭に申し上げた新型コロナウイルス感染症の社会的状況の収束が見られ、やがて、同感染症が完全制圧されて終わりを迎える、収束に向かうことを切に祈念したいと思います。
次に、２点目の「町のコインどっつ」についてです。
令和４年２月 25 日より、「町のコインどっつ」の運用が開始されました。
本町では、「人と人がつながる、サクラサクまち」というテーマでスタートしたとお伺いしています。
全国で、町のコインの運用は 16 地域で活用されているようです。
各地域で、人と人が繋がるアイデアやＳＤＧｓへの取組など多様な取組があると思います。
しかし本町では、まだまだ認識が少なく、浸透もされていないと思います。
そこで質問に入ります。
一つ、「町のコインどっつ」を運用する目的についての説明を改めてお願い致します。
町長（丸尾　幸雄）
　門議員の町のコインどっつを運用する目的についてのご質問に答弁をさせて頂きます。
まちのコインは、スマートフォンやタブレット端末でご利用頂けるアプリで、地域内外の繋がり強化や「関係人口」と呼ばれる定住には至らないものの特定の地域に継続的に多様な形で関わる方々を創出する取り組みにより、コロナ禍でダメージを受けた地域コミュニティや地域経済の回復を促進し、持続可能なまちづくりを推進することを目的として、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して導入したものでございます。なお、関係人口の創出につきましては、「第２期たどつの輝き創生総合戦略」の基本目標２「たどつとツナガル人を

増やす」の中で推進しております。
導入に当たりまして、町内で地域活性化などの活動を行われている方々にご意見を頂き、「つながり」というキーワードから、事業テーマを「人と人とがつながるサクラサクまち」、また本町での通貨名を「どっつ」と決定致しました。「どっつ」の由来は、多度津町の地名から連想され、また、町内にある魅力的な地域資源を点を表す「dot（ドット）」に見立て、点と点が繋がることを複数形の「dots（ドッツ）」で表現されております。
「どっつ」は、アプリをインストールするだけで、どなたでもご利用頂けるものであり、利用を通じて町内外を問わず、様々な世代・業種の方の間に交流が生まれ、地域の美化・保全などの地域活動及び地域行事への若い世代の参加促進や町内事業所及び団体と消費以外の側面で関わる町内外の人々の増加等を図ることが出来るものと考えております。
以上、答弁とさせて頂きます。

議員（門　　秀俊）

二つ目です。具体的にどのような利用方法がありますか。また、目的を達成するためには、今後どのような利用方法を促進していきたいでしょうか、お伺い致します。

政策観光課長（土井　真誠）

門議員の具体的な利用方法及び目的を達成するためにどのような利用方法を促進していきたいかについてのご質問に、答弁をさせて頂きます。
まず「どっつ」の具体的な利用方法につきましては、大きく分けてコインを「もらう体験」と「あげる体験」の２つがございますが、コイン自体に換金性はございません。
例えば、林求馬邸の庭掃除に参加してもらったコインを使用し、普段は入ることの出来ない白方の絶景スポットに案内してもらえる等、利用者は地域との交流を通じて、お金では買えない「特別な体験」を受けることができ、スポットは、コインを目的として訪れる多様な方々との繋がりを作ることが出来るものでございます。
なお、現在、コインを「もらう体験」として登録されているものは、「商品のテイクアウト時にマイバッグを持参してくれたら100どっつ」、「ＳＮＳでお店や商品について情報発信してくれたら150どっつ」、「座禅会に参加してくれたら100どっつ」などがございます。
また、コインを「あげる体験」と致しましては、「50どっつで多度津のおすすめスポットを教えてもらえる」、「100どっつでうどん屋で売れ残りそうなうどん玉を特別に販売してもらえる」、「500どっつで農家さんから商品のこだわりを聞ける」などがございます。

その他、イベントでも「どっつ」をご利用頂くことが可能であり、本年４月２日に海岸寺屏風浦公園で開催されたイベントでは、出店しているブースを訪れた際に50どっつをもらうことができ、各ブースをまわり貯めた「どっつ」で貝殻くじが出来るなどイベントの活性化にも活用頂いています。

次に、事業目的達成のために促進していきたい利用方法につきましては、大きく３つございます。

１つ目は、自治会を初めとした地域団体にスポット登録をして頂き、地域活動や地域行事でご利用頂くことでございます。

地域活動等に「どっつ」をご利用頂くことで、地域コミュニティの活性化が図られるものと考えています。

２つ目は、コミュニケーションが生まれるような体験の登録でございます。

現状、「どっつ」をご利用頂くことによってスポットと利用者の方が繋がるきっかけにはなっていますが、コミュニケーションが生まれるような利用方法が少ないため、新たな体験の発掘や登録の推進を図ってまいります。

３つ目は、スポット同士の連携でございます。

普段の事業や活動では連携が困難な場合も「どっつ」を通じることで円滑な連携が出来るものと考えております。

今後、町内にある店舗でのスタンプラリーを企画し、町内の周遊を促進する等の利用方法を検討してまいります。

以上、答弁とさせて頂きます。

議員（門　　秀俊）

３つ目です。５月末で運用開始から約３ヶ月が経過しましたが、５月末時点の利用者数、スポット数及び「どっつ」が利用された数等の実績をお示し下さい。お願い致します。

政策観光課長（土井　真誠）

門議員のまちのコインどっつの利用実績についてのご質問に、答弁をさせて頂きます。

本年５月末での実績と致しまして、利用者数が403人、スポット数が43スポット、累計体験掲載数が60件、どっつの総流通量が1,836,522どっつでございます。

また、利用者数の内訳と致しまして、町内在住の利用者数が183人で全体の45%、町外在住の利用者数が129人で全体の32%、在住地域未設定の利用者が91人で23%でございます。

以上、答弁とさせて頂きます。

議員（門　　秀俊）

４点目です。今後、利用を促進するための策はどのように考えていますか、お願い致します。

政策観光課長（土井　真誠）

門議員の今後の利用促進策についてのご質問に、答弁をさせて頂きます。

利用促進のため、「どっつ」導入当初よりフライヤーやポスター等、紙媒体でのプロモーション及びホームページや移住スカウトサービス「ＳＭＯＵＴ」などのＷＥＢ媒体でのプロモーションを実施しており、導入後には新聞やテレビなど多くのメディアにも取り上げて頂いています。

また、スポットとなって頂ける方々に対し、随時、説明会を実施しており、先般、多度津商業協同組合の総会でもご説明の時間を頂きました。

今後につきましては、先ほど申し上げた取組の継続はもちろんのこと、多くの方が集まるイベントでの利用を促進することによる「ユーザーの増加」、多度津商工会議所や地域団体等と連携し、町内のお店や企業、団体の方々に事業説明を行うことによる「登録スポットの増加」、スポット同士が繋がるコミュニティの場を定期的に設け、「どっつ」の運用に関しての意見交換を通じた「体験の増加」を推進してまいります。

また、現在、香川大学の学生プロジェクトである「たどつまちＬａｂｏ」にスポットとして登録頂いていますが、他地域では学生が関わるプロジェクトや部活動等がスポットになっている事例もございますので、対象団体がございましたらスポット登録を促すとともに、スポット同士のコミュニティの場にも学生の方々に参加頂き、ワークショップ等の意見交換を行いながら「どっつ」を運用するサポートを継続的に行ってまいります。

引き続き「どっつ」の利用促進を図ることで、地域内外の繋がり強化や「関係人口」を創出し、持続可能なまちづくりを推進してまいります。

以上、答弁とさせて頂きます。

議員（門　　秀俊）

有難うございました。

「まちのコインどっつ」は、１ヶ月 11 万円、年間 132 万円もの費用が必要です。今年度は新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の利用で行っていますが、今後は本町の予算での費用となります。今以上に「まちのコインどっつ」を浸透させなければならないと思います。

町の人が理解するには難しいようです。言葉での説明もそうですが、何かイラストなどを活用して分かりやすく、理解してもらい「人と人がつながる、サクラサクまち多度津」の「どっつ」を広めて頂きたいと思います。

そして、多度津の輝き総合戦略の目標、多度津とツナガル人を増やし、本町との関係人口の増加につながるよう要望致します。

以上で一般質問を終わります。